

将来、よりお金が稼げる大学とは

中 3-A-25 西川太翔

目次

はじめに

第一章

第一節 大学別の平均収入

第二節 平均収入が高い大学の特徴

第三節 単科大学の平均収入が高くなる理由

第二章

第一節 大学ごとの就職先

第二節 専門性が高い大学の就職先

最後に

はじめに

なぜこの「将来、よりお金が稼げる大学とは」という研究テーマにしようと思ったかという、1つ目は、将来に、自分がよりお金を稼げるようになりたいと考えた時、「実際にお金を稼いでいる人はどのような人なんだろう？」と疑問に思ったからだ。

ではどのように「お金を稼ぐ人」の要素を調べるかを考えた時、いろいろな大学の卒業生の平均収入や就職先などを調べれば良いのではと思った。それはなぜかと言うと、大学は「最も程度の高い学問を学べる所」とされ幅広い学問をより深く学ぶことができる。したがって大学を卒業することで大学に進学しない人より就職の幅が広がる。そして卒業後は社会に出ていくので、大学には卒業生の就職先などや大学ごとの平均収入のデータなどが多くあり比較検討が可能である。その他に、最近、世間では大学を偏差値で比べることが多く「F ラン大学」などの言葉が生まれたり、就活活動において求める偏差値に満たない大学生は選考から除外する就活生をふるいに掛けるシステム「学歴フィルター」が問題になったりする。このような時代に偏差値ではない違う視点からも大学を見ることはできないかと考えたからである。

それを調べることで将来の自分の進路の参考にすることができ卒論のテーマとして研究する価値があると思った。

第一章

第一節 大学別の平均収入

まず初めに何から調べようかと考えた時、各大学の卒業生が平均でどれくらい稼いでいるか把握する必要があったので、各大学の平均収入を調べてみた。

調べていくとパーソナルキャリアが運営している転職サイト DODA の系列の転職サイト「キャリアコンパス」が発表した出身大学別平均収入ランキングである「キャリアコンパス by DODA 出身大学別平均収入ランキング」というものがあったのだが、これには2種類のランキングがあった。1つ目は複数の学部を持つ総合大学だけのランキング、2つ目は薬科大や工業大などの単科大学も含まれる日本のすべての大学のランキングとなっており、調査されている大学の範囲が広がっていた。

この2つのランキングを見比べると、興味深いことに順位がかなり変わっていた。例えば1位から5位までを比べてみると1つ目の総合大学だけのランキングでは1位 東京大学、2位 一橋大学、3位 京都大学、4位 慶應義塾大学、5位 東北大学となっており、皆が知っている有名大学で占められている。

(表1 参照)

表1 総合大学だけのランキング

【1位】 東京大学 (729万円)	【32位】 学習院大学 (503万円)
【2位】 一橋大学 (700万円)	【32位】 山梨大学 (503万円)
【3位】 京都大学 (677万円)	【32位】 山形大学 (503万円)
【4位】 慶應義塾大学 (632万円)	【35位】 国際基督教大学 (502万円)
【5位】 東北大学 (623万円)	【36位】 熊本大学 (500万円)
【6位】 名古屋大学 (600万円)	【37位】 信州大学 (492万円)
【7位】 大阪大学 (599万円)	【38位】 長野大学 (489万円)
【8位】 神戸大学 (590万円)	【39位】 佐賀大学 (488万円)
【8位】 北海道大学 (590万円)	【40位】 岡山大学 (484万円)
【10位】 横浜国立大学 (573万円)	【41位】 宇都宮大学 (483万円)
【11位】 早稲田大学 (572万円)	【41位】 新潟大学 (483万円)
【12位】 九州大学 (569万円)	【43位】 法政大学 (482万円)
【13位】 東京理科大学 (563万円)	【44位】 徳島大学 (480万円)
【14位】 上智大学 (555万円)	【45位】 東海大学 (479万円)
【15位】 横浜市立大学 (550万円)	【46位】 香川大学 (478万円)
【16位】 大阪府立大学 (546万円)	【47位】 滋賀大学 (476万円)
【17位】 中央大学 (531万円)	【47位】 京都産業大学 (476万円)
【18位】 埼玉大学 (530万円)	【49位】 大分大学 (469万円)
【19位】 筑波大学 (527万円)	【49位】 福井大学 (469万円)
【20位】 明治大学 (524万円)	【49位】 日本大学 (469万円)
【20位】 千葉大学 (524万円)	【52位】 成城大学 (468万円)
【22位】 同志社大学 (522万円)	【52位】 名古屋市立大学 (468万円)
【23位】 関西学院大学 (513万円)	【54位】 甲南大学 (467万円)
【23位】 大阪市立大学 (513万円)	【54位】 関西大学 (467万円)
【25位】 首都大学東京 (512万円)	【56位】 立命館大学 (466万円)
【26位】 金沢大学 (511万円)	【57位】 秋田大学 (465万円)
【27位】 青山学院大学 (510万円)	【58位】 東京経済大学 (463万円)
【28位】 広島大学 (506万円)	【58位】 富山県立大学 (463万円)
【29位】 成蹊大学 (504万円)	【60位】 東邦大学 (461万円)
【29位】 長崎大学 (504万円)	【60位】 西南学院大学 (461万円)
【29位】 立教大学 (504万円)	【60位】 明治学院大学 (61万円)

では、2つ目の全大学でのランキングではどうなっているかと見てみると。

1位が星薬科大学、2位は京都薬科大学、3位が東京大学、4位は一橋大学、5位が東京工業大学となっていた。(表2参照)

表2 全大学ランキング

【1位】星薬科大学 (727万円)	【32位】京都工芸繊維大学 (511万円)
【2位】京都薬科大学 (634万円)	【33位】徳島大学 (505万円)
【3位】東京大学 (632万円)	【33位】東京都市大学 (505万円)
【4位】一橋大学 (628万円)	【35位】北陸先端科学技術大学院大学 (503万円)
【5位】東京工業大学 (616万円)	【36位】横浜市立大学 (502万円)
【6位】岐阜薬科大学 (615万円)	【36位】大阪市立大学 (502万円)
【7位】東京薬科大学 (600万円)	【36位】九州工業大学 (502万円)
【8位】京都大学 (597万円)	【39位】信州大学 (501万円)
【8位】慶應義塾大学 (590万円)	【40位】広島大学 (499万円)
【10位】明治薬科大学 (589万円)	【41位】中央大学 (498万円)
【11位】電気通信大学 (583万円)	【41位】千葉大学 (498万円)
【12位】首都大学東京 (571万円)	【43位】東京電機大学 (495万円)
【13位】北海道大学 (561万円)	【44位】三重大学 (493万円)
【14位】東北大学 (556万円)	【44位】上智大学 (493万円)
【15位】防衛大学 (552万円)	【44位】群馬大学 (493万円)
【16位】豊橋技術科学大学 (549万円)	【47位】福井大学 (492万円)
【16位】早稲田大学 (549万円)	【48位】岩手大学 (491万円)
【18位】東京理科大学 (548万円)	【48位】同志社大学 (491万円)
【19位】九州大学 (546万円)	【50位】金沢大学 (490万円)
【20位】大阪大学 (545万円)	【51位】小樽商科大学 (489万円)
【21位】名古屋工業大学 (544万円)	【51位】青山学院大学 (489万円)
【22位】名古屋大学 (540万円)	【53位】東京外国語大学 (488万円)
【23位】横浜国立大学 (536万円)	【54位】長岡技術科学大学 (487万円)
【24位】東京農工大学 (531万円)	【55位】明治大学 (485万円)
【25位】神戸大学 (530万円)	【56位】静岡大学 (466万円)
【26位】山梨大学 (527万円)	【57位】産業能率大学 (482万円)
【27位】筑波大学 (526万円)	【58位】熊本大学 (480万円)
【28位】芝浦工業大学 (524万円)	【58位】成蹊大学 (480万円)
【29位】大阪府立大学 (522万円)	【60位】岡山大学 (479万円)
【30位】室蘭工業大学 (519万円)	【61位】北里大学 (478万円)
【31位】奈良先端科学技術大学院大学 (513万円)	【62位】東京医科歯科大学 (476万円)

この2つを見比べると表1では1位だった東京大学が表2のランキングでは3位に下がっており、京都大学、慶應義塾大学、東北大学についても表2のランキングではベスト5に入っておらず、それぞれ8位、9位、14位と順位を落としている。表2のランキングの続きを見ていくと6位から15位についても岐阜薬科大学、東京薬科大学、明治薬科大学、電気通信大学、東京都立大学、防衛大学など多くの薬科大学や工業大学が上位にランクインする予想外の結果になった。

ちなみに表2について50位までみると20校もの単科大学がはいっていた。私はこのテーマを調べるまで星薬科大学や京都薬科大学などの大学名は聞いたことがなくて大変驚いた。

私はこの2つのランキングを見て疑問が出た。1つ目は、「表1のランキングを見た時にどのような特徴を持った大学が上位に入ってくるのか」というものであり、国立なのか私立なのか、偏差値が高いところなのか、大学の所在地などが関係するのかということ。2つ目は、「東京大学のような有名な大学よりも工業大学のような単科大学の平均収入の方が

高くなっている要因となっているものは何なのか」である。この 2 つの疑問を第二節と第三節で考えていきたい。

第二節 平均収入が高い大学の特徴

まずはじめに「どのような特徴を持った大学が平均収入の値が高くなるのか」という疑問を考えていきたいと思う。当初の私の予想では、偏差値が高い大学が平均収入の値が高くなっているだろうと予想していた。しかし偏差値のみで比べてしまうことは「偏差値だけではない違う視点で大学を見たい」という当初の目的に反してしまうので、大学を比較するための追加要素はないかと考えたところ、「偏差値」に加え「国公立なのか私立なのか」、「大学の立地」、などを加えて比較するのが良いと思った。理由は皆が進学の際、大学選びのための重要視する項目であるため、将来の平均収入に関連するのではないかと考えたためである。

最初に「偏差値」について調べていく。「偏差値」は大学がどれくらいの難しさであるかを示しており、大学選びの重要なポイントになっている。しかし大学の偏差値は学部ごとにも違っており、大学を比較するためにはどの学部の偏差値で比べるかをあらかじめ決める必要がある。そこで私は医学部医学科の偏差値で比べることにした。その際にはベネッセが発表している大学医学系学部の大学一覧というものを参考にした。

① 国公立大学

- 77 東京大学
- 76 京都大学
- 74 大阪大学
- 72 東京医科歯科大学
- 71 北海道大学 東北大学 千葉大学 名古屋大学 神戸大学 九州大学
防衛医科大学校
- 70 筑波大学 岡山大学 広島大学 横浜市立大学 名古屋市立大学
大阪公立大学 新潟大学
- 69 新潟大学 金沢大学 信州大学 岐阜大学 浜松医科大学 三重大学
滋賀医科大学 京都府立医科大学 奈良県立医科大学 愛媛大学
長崎大学 鹿児島大学

② 私立大学

- 76 慶應義塾大学
- 73 自治医科大学 東京慈恵会医科大学
- 72 順天堂大学

- 71 日本医科大学
- 70 国際医療福祉大学 昭和大学 大阪医科薬科大学 近畿大学
- 68 岩手医科大学 東北医科薬科大学 埼玉医科大学 帝京大学 東京医科大学
東邦大学 日本大学 聖マリアンナ医科大学 愛知医科大学
関西医科大学 久留米医科大学 産業医科大学
- 67 獨協大学 北里大学 杏林大学 東海大学 東京女子医科大学 金沢医科大学
藤田医科大学 兵庫医科大学 福岡大学 川崎医科大学

まずは国公立と私立でそれぞれ 30 位くらいまでをピックアップしてみた。ここで慶應義塾大学の偏差値が京都大学と同じで、一般的には日本で一番合格するのが難しいと言われている大学の東京大学と比べても偏差値が 1 しか変わらないことに疑問を持った。しかし、調べてみるとそこには偏差値には表れない国公立と私立の受験システムに違いがあることが理由だと分かった。

国公立大学入学試験においては大学入学共通テストが必須でかつ必要となる科目数では 5 教科 7 科目が基本であり、7 科目の平均偏差値で国公立受験を考える必要がある。それに対し私立では 3~4 科目が必要となるのが基本であり（場合によっては 1 科目でよい受験方式すら存在している）、多くの場合 3 科目の平均偏差値で考えることになる。したがって受験科目の少ない私立大学の方が、1 科目あたりの学習に使用できる時間が増え、より高い学力が必要となる。その結果上に示した偏差値も私立大学の方が高くなりやすいのである。

こういう背景から国公立受験は私立受験よりも難しくなっており、互いの偏差値を簡単に比べることはできないため偏差値の表も国立と私立で分けることにした。

そしてもう一つ気づいたことは、私立大学の表を見た時、誰もが知っているあの大学が入っていないことだった。慶應義塾大学と並び日本を代表する私立大学である早稲田大学が入っていない、また GMARCH, SMART や関関同立などといった難関大学も入っていなかった。この理由は、これらの大学にはそもそも医学部が無いことが分かった。さらに私立大学では医学部がある方が珍しいこともわかった。また国公立大学では一橋大学も医学部がなかった。それは一橋大学の前身の大学が東京商科大学という単科大学でありその流れで今なお医学部や理工学部がない状態になっているからである。

上記の理由から医学部がない大学での偏差値ランキングを作ってみた。このランキングではその大学の偏差値が最も高い学部の偏差値をもとにした

① 国公立大学

- 72 一橋大学
- 71 国際教養大学
- 69 東京工業大学
- 66 お茶の水女子大学

②私立大学

- 76 早稲田大学 国際基督教大学
- 75 上智大学
- 74 同志社大学 立命館大学 関西学院大学
- 73 明治大学

65 東京外国語大学

72 青山学院大学 法政大学 立教大学

関西大学

71 学習院大学 中央大学

本題に戻る。第一節で出した平均収入のランキングと比べてみる。まずは表1のランキングの場合。

1. 東京大学	77	6. 名古屋大学	71
2. 一橋大学	72	7. 大阪大学	74
3. 京都大学	76	8. 神戸大学	71
4. 慶應義塾大学	76	9. 北海道大学	71
5. 東北大学	71	10. 横浜国立大学	63

1位から10位までは上記の通りになっていた。そして11位から50位では40校の内33校が偏差値60を超えていた。反対に偏差値が60を超えていない大学は7校あり、そのうち1校のみが30位以内に入っており、その他の6校はいずれも30位以下だった。したがって1位から50位では50校の内43校が偏差値60を超えているということになった。

このことより表1のランキングでは偏差値が高い大学の方が平均収入も高いという傾向があることが分かった。

では表2のランキングではどうなっているか比べてみる。

1. 星薬科大学	61	6. 岐阜薬科大学	64
2. 京都薬科大学	58	7. 東京薬科大学	61
3. 東京大学	77	8. 京都大学	76
4. 一橋大学	72	9. 慶應義塾大学	76
5. 東京工業大学	69	10. 明治薬科大学	59

1位から10位までは上記の通りになっており、11位から50位では40校の内34校が偏差値60を超えていた。したがって1位から50位では50校の内42校の大学が偏差値60を超えていた。そして偏差値が60を超えていなかった8校の内、30位以内に入っていたのは4校。表1のランキングから3校も増える形となった。

表1のランキングから表2のランキングで偏差値が60を切っている大学は1校しか増えなかった。しかし2つ目のランキングでは偏差値60を切っている大学が上位10位の部分に2校も入っていた。表1のランキングでは0校だったのを考えると、少しは増えたことが分かった。

この結果から平均収入が高い大学の特徴は「偏差値」が大きな要因ではあるが偏差値が絶対ではなく他の要素も入ってくることが分かった。

次に大学の所在地によってその大学の平均収入が変化するかという立地と大学との関係性について調べていきたい。

最初は表1のランキングを見ていきたい。まずは52校の大学を地方別に分けていく。

関東地方	23校	近畿地方	9校
中部地方	8校	九州地方	5校
東北・北海道地方	3校	中国地方	2校
四国地方	2校		

関東地方の大学が他の地方に比べ大幅に多くなっている。そして中部地方の大学が中国地方と四国地方の大学の2校に比べ8校と比較的多くなっている。これは何故か。それについて考えるために次は都道府県別で大学を分けた。

- 1位 東京都 17校
- 2位 大阪府・京都府 各3校
- 3位 兵庫県・神奈川県・長野県 各2校
- 4位 宮城県・愛知県・北海道・福岡県・埼玉県・茨城県・千葉県・石川県・広島県・長崎県・山梨県・山形県・熊本県・佐賀県・岡山県・栃木県・新潟県・徳島県・香川県・滋賀県・大分県・福井県 各1校

この結果から人口が関係しているのではないかと推測した。都道府県別の人口では東京都が約1400万人と全国で1位、大阪府は約883万人で3位、京都府は約257万人で13位、兵庫県は約546万人で7位、神奈川県は約923万人で2位、長野県は約204万人で16位である。

さらに地方別の人口は関東地方が約4200万人、近畿地方約2300万人、中部地方約2100万人、九州地方約1500万人、東北・北海道地方約1300万人、中国地方約700万人、四国地方約400万人となっていた。

この結果は、先程調べた大学数が多い地方の順番と一緒になっている。このことを踏まえると平均収入が高い大学は人口が多い地域に多くあると言えそうである。

一方で平均収入が高い大学は、人口が多い地域に多くあると仮定すると愛知県や埼玉県・千葉県・兵庫県・静岡県などは人口が多い都道府県にも関わらず、表1のランキングでは当該地区の大学が1校のみしか入っていなかった。さらにランキングに当該地域の大学が入っていないということもあった。

これらの都道府県の共通点としては大都市に隣接していることが挙げられる。例えば埼玉県や千葉県では東京都、兵庫県は大阪府、静岡県は愛知県という様に、地理的特徴から居住する県の大学に進学するより隣接している大都市にある大学に進学するということが

容易であることが理由となっていると推測できる。しかし中部地方の最大都市ありで名古屋都市圏の中心であるが愛知県も当該地域の大学が1校しか入っていなかった。それを紐解く鍵が二つ目のランキングにあった。

表1のランキングの様に表2のランキングの大学を地方別に分けると以下のようになった。

関東地方 25校	近畿地方 10校
中部地方 9校	東北・北海道 4校
九州地方 2校	中国地方 1校
四国地方 1校	

表2のランキングは表1のランキングの結果と同様であった。さらに都道府県別でも大学数の順位は変化しているのか調べてみた。

- 1位 東京都 19校、
- 2位 京都府 4校、
- 3位 神奈川県・愛知県・大阪府・北海道 各3校
- 4位 福岡県 2校
- 5位 岐阜県・宮城県・兵庫県・山梨県・茨城県・徳島県・長野県・広島県・千葉県・三重県・群馬県・福井県・岩手県・石川県・新潟県 各1校

表1のランキングでは1校しか入っていなかった愛知県と北海道は表2のランキングでは3校に増えていた。

上記のランキングで1位から3位だった都道府県別の人口ランキングは東京都が1位、京都府が13位、神奈川県が2位、愛知県が4位、大阪府が3位、北海道が8位となっており平均収入が高い大学は人口が多い地域に多くあるという結果となり、このことから人口と関係していることが表2のランキングからも推測できた。

それでは、なぜ愛知県は表1のランキングに当該地域の大学が1校しか入っていなかったのか。まず表1のランキングに入っていた1校は名古屋大学。そして表2のランキングに入っていた3校は名古屋大学・名古屋工業大学・豊橋技術科学大学。名古屋工業大学と豊橋技術科学大学はどちらも国公立の単科大学であり表1のランキングは複数の学部を持つ総合大学のみを調査対象としていたため、この2つの大学は調査対象外だったのだ。

それを踏まえ、愛知県内にある国公立大学を調べてみると、愛知県内には国公立大学が7校存在し、その内、単科大学は4校と半数以上を占めていた。それに対し、大阪府内には国公立大学が5校存在し、その内、単科大学は1校。神奈川県内には国公立大学が3校存在し、その内、単科大学が1校と両府県ともに国公立大学のうち、単科大学が占める割合は半数以下だった。

この結果から愛知県は他府県に比べ国公立大学のうち単科大学が占める割合が大きいことがわかった。したがって単科大学が調査対象外だった表1のランキングでは、52校の内に入っている愛知県の大学の数が少なかったのだ。

これらのことを踏まえて平均収入が高い大学は人口が多い都道府県や地域に多く存在しているという結果となった。

それではなぜ人口が増えると平均収入が高い大学が増えるのかということを考えてみたい。

まず、表1のランキングについて各都道府県に存在している大学の母数が違っているということが挙げられる。日本全国には大学が807校存在し、東京都には大学が144校もある。しかし2位の大阪府は58校と東京都と大きな差がついている。この様に大学の数も都道府県別で同じではない。したがって大学の数が多い方がランキングに入る数も増える傾向になる。

2つ目に物価の差というものがある。人口が増えると資源や食糧の需要量が増え、供給量を上回るため価格が上昇する、すると企業側は賃金を上げる。そして賃金が上がった社員の家計は余裕が増えさらに経済活動が活発になる。これの繰り返しよって物価は上がってくる。したがって人口が多い都道府県の方が物価は高く、賃金も高い傾向となる。実際に物価が最も高いのは東京都、2番目に高いのは神奈川県、3番目北海道、4番目千葉県であり、その一方、最も低いのは宮崎県、2番目に低いのは群馬県である。また平均年収においても doda が発表している「平均年収ランキング」では全国平均年収は392万円となっており、最も平均収入が高いのは東京都455万円、2番目は神奈川県435万円、3番目は千葉県422万円。一方、最も平均収入が低いのは沖縄県347万円、2番目は高知県357万円、3番目は鳥取県363万円。さらに先ほど挙げた宮崎県・群馬県の平均年収も365万円・388万円となっており、どちらも全国平均年収を下回っている。このことより物価と平均収入との相関性は高いことがわかる。したがって人口が多い方が物価も高く賃金も高いため平均収入が高い大学も人口の多い都道府県に多く存在していることがわかった。

最後にもう一つの比較要素である「国公立なのか私立か」を調べていきたい。

表1のランキングでは52校中、国公立大学が35校、私立大学が17校。10位まででは国公立大学が東京大学・一橋大学・京都大学・東北大学・名古屋大学・大阪大学・神戸大学・北海道大学・横浜国立大学の9校。私立大学が慶應義塾大学の1校。

表2のランキングでは52校中、国公立大学が38校、私立大学が14校。10位まででは国公立大学が東京大学・一橋大学・東京工業大学・岐阜薬科大学・京都大学の5校。私立大学が星薬科大学・京都薬科大学・東京薬科大学・慶應義塾大学・明治薬科大学5校となっている。

表2のランキングの上位10位では私立大学が4校も増える結果となったが、国公立大学の方がどちらのランキングでも私立大学よりも多く入っていたので総合的に判断すると国公立大学の方が平均収入の高い大学が多いことがわかる。

第二節では「平均収入の高い大学の特徴」について調べてきたが「偏差値」「立地」「国公立か私立」と言う観点から見ると「人口が多い大都市や都市圏にあり偏差値がある程度高い国公立大学」の方が平均収入が高くなる傾向にあるということが分かった。

第三節 単科大学の平均収入が高くなる理由

第一節で述べた「なぜ工業大学のような単科大学が東京大学や京都大学より平均収入が高くなるのか」と言う疑問について考えていきたい。

表2のランキングでは、1位・2位が星薬科大学・京都薬科大学とどちらも単科大学であり、さらに10位までに単科大学が6校と多く入っていた。単科大学とは、主に工業・医学・商科・教育・芸術と言った1領域のみの学部を持つ大学のことを言う。そのため単科大学はその専門分野に特化している人、情報が総合大学よりも多く集り、さらには教授陣や設備施設が強化されているので、より高度な専門知識が得られ、専門的な研究をすることができる環境が整っている。

そして工業大学などはその高い専門的な技術から就職に強いと言われている。では実際に就職に強くなっているのか見ていく。大学通信が発表している「実就職率ランキング」(23年卒、卒業生1000人以上)というものがある。「実就職率とは就職者÷〔卒業生(修了者)数-大学院進学者数〕×100」で算出され、より実態に即した就職状況を知ることができる値のことである。ランキングに入っている単科大学は以下となる。

1位	愛知工業大学	98.6%
3位	大阪工業大学	98.1%
4位	金沢工業大学	97.6%
5位	名古屋工業大学	96.4%
6位	国際医療福祉大学	96.1%
7位	芝浦工業大学	96.0%

上位10位中6校が単科大学になっているなど上位にランクインした。しかし名古屋大学は111位、九州大学は127位、東北大145位、北海道大学、大阪大学、京都大学、東京大学は150位内にはランクインしていなかった。また早慶上理ではランクインしているのは28位の東京理科大学のみで、その他の慶應義塾大学、早稲田大学、上智大学はランクインしていなかった。関関同立においても関西学院大学が65位、関西大学85位、同志社大学109位、立命館大学123位となった。この様に旧帝大や早慶上理、関関同立などの難関大学が上位に入っていなかった。さらに意外なのはこの挙げた大学の中でもっとも実就職率が低かったのは東京大学の65.8%だったのだ。一見すると東京大学も「大した事ないじゃん」と思うかもしれない。しかし就職率が低くなっているのにも訳がある。東京大学

にもなってくると一般企業には就職せず学生自ら起業をすることも少なくない。さらには海外留学や大学院への進学をする学生も多い。さまざまな進路の選択があるため、直接、実就職率には関わらず、就職率が上がりにくい傾向になっている。しかし先ほど挙げた「大学院への進学をする学生が多い」というのは東京大学のような大学だけではなく、工業大学のような大学にも当てはまる。ではなぜ工業大学の実就職率は高くなっているのかというと、このランキングでは大学名の横に「*」の印があり、この印は大学院修了者もそのデータに含まれていることを示している。この印は大学ごとに付いていなかったりとバラバラだったがほとんどの工業大学にはその印が付いていた。つまり実就職率が高くなっていたのは大学院の就職生も加算されていたからと言うことになる。しかし残念ながら東京大学や京都大学はランク外であったためマークの確認することは出来なかった。そのため私は実際に調べてみることにした。

東京大学の大学案内には「学部卒業者の卒業後の状況」があり、大学院の進学状況は下記の通りだった。

法学部	卒業生 398 人のうち 24.6%
経済学部	卒業生 329 人のうち 11.8%
文学部	卒業生 308 人のうち 21.4%
教育学部	卒業生 100 人のうち 14.0%
教養学部	卒業生 196 人のうち 43.8%
工学部	卒業生 981 人のうち 85.1%
理学部	卒業生 299 人のうち 78.5%
農学部	卒業生 218 人のうち 61.9%
薬学部	卒業生 77 人のうち 93.5%

東京大学全体では 54%の学生が大学院に進学していることが分かった。

次に京都大学の大学院進学状況を見てみる。

総合人間学部	35.8%
文学部	25.0%
教育学部	37.1%
法学部	30.1%
経済学部	7.1%
理学部	81.7%
医学部	48.4%
薬学部	72.7%
工学部	89.3%
農学部	77.0%

京都大学全体で 50%の学生が大学院に進学していた。

2022年度の全大学卒業生の大学院進学率は12.4%となっていて、実際に2つの大学の進学率は高いことが分かった。

次に大学通信の「著名400社実就職率ランキング」を見ていきたい。著名400社は日経平均株価や採用規模や会社規模、知名度、大学生の人気企業ランキングなどを参考に大学通信側が選定していた。こちらのランキングにも先ほどのランキングにあった「*」の印があり、先ほどと同様にこの印が付いている大学は大学院修了者のデータも含んでいる。1位から10位まででは、1位が豊田工業大学の56.8%。卒業生の過半数が著名400社に就職している。2位が一橋大学の50.8%。3位が東京工業大学の48.4%。4位が慶應義塾大学の44.2%。5位が名古屋工業大学の40.4%。6位が東京理科大学の38.7%。7位が電気通信大学の37.7%。8位が九州工業大学の35.3%。9位が名古屋大学の34.8%。10位が大阪大学の34.0%となっていた。10位までにランクインしている大学のうち6校が単科大学と、著名な企業にも人材が求められていることが分かる。そして「実就職率ランキング」では順位が低かった旧帝大や早慶上理、関関同立も「実就職率ランキング」ではどの大学も順位が高くなっていることが確認できた。やはりこの様な難関大学の卒業生も同様に著名な企業に求められていた。この結果から実際に単科大学は難関大学と同じか、もしくはそれ以上に就職に強いことが分かった。

第二章

第一節 大学ごとの就職先

第一章では大学と平均収入の関係性を調べてきた。その結果「人口が多い大都市や都市圏にあり偏差値がある程度高い国公立大学」の方が平均収入は高くなる傾向になっているということが分かった。それでは大学ごとの就職先はどの様になっているのだろうか。やはりこちらも第一章で調べた「大学と平均収入」の関係性と同じようになっているのか疑問になり調べることにした。そのため第一章と同じ視点から大学の主な就職先を見ていきたい。調べる方法は大学通信が発表している「2023年大学ごとの主な就職先」を利用し、就職人数順に上位7つの企業をピックアップした。

【東京大学】

「東京大学」「アクセンチュア」「ソニーグループ」「楽天グループ」「日本IBM」「野村総合研究所」「マッキンゼー・アンド・カンパニー・インコーポレーション・ジャパン」

「アクセンチュア」とはアイルランド発の総合コンサルティング会社であり、世界120以上の国の企業を顧客として持つ多国籍企業の日本法人である。「マッキンゼー・アンド・カンパニー・ジャパン」も同じく外資系のコンサルティ

ング会社である。その他の就職先企業も全国的に展開している企業であり、就活生には人気のある企業となっている。

【北海道大学】

「北海道大学」「北海道大学病院」「札幌市」「アクセンチュア」
「ニトリ」「北海道」「富士通」
北海道に本社がある企業や地方自治体が主な就職先となっていた。

【東北大学】

「国立大学法人東北大学」「東北大学病院」「日立製作所」「富士通」「宮城県庁」「東北電力」「日鉄ソリューション」
北海道と同じく東北地方に本社がある企業が主な就職先になっていることが分かった。

【名古屋大学】

「トヨタ自動車」「デンソー」「日本ガイシ」
「中部電力パワーグリッド」「ブラザー工業」「豊田自動織機」
「アクセンチュア」
こちらと同じく中部地方に本社がある企業が主な就職先になっている。

【横浜国立大学】

「富士通」「KDDI」「東京都庁」「アクセンチュア」「日本 IBM」
「日立製作所」「NTT ドコモ」

以上、東日本にある国立大学の就職先を見てきたが、次に私立大学を見ていく。

【慶應義塾大学】

「慶應義塾」「アクセンチュア」「楽天グループ」「NTT グループ」
「野村総合研究所」「PwC コンサルティング」「リクルート」
東京大学とそれほど就職先が変わらないことが分かった。

【青山学院大学】

「楽天グループ」「パーソナルキャリア」「三井住友信託銀行」
「リクルート」「NTT データ」「日立システム」「富士通」
先ほどまでと就職先の企業が少し変わってきた。

【学習院大学】

「東京 23 区特別人事」「アクセンチュア」「千葉銀行」「学習院」
「日本生命保険」「SMBC 日興証券」「東京都教育学委員会」

【日本大学】

「大和ハウス工業」「システナ」「大成建設」「富士ソフト」
「清水ハウス」「スズキ」「イオンリテール」

次は西日本にある大学。まず初めに国公立大学からみていく。

【京都大学】

「国立大学法人京都大学」「国立大学法人京都大学医学部附属病院」
「アクセンチュア」「楽天グループ」「三菱重工業」
「野村総合研究所」「三菱UFJ 銀行」

こちらでも東京大学とさほど主な就職先が変わらないことが分かった。

【大阪大学】

「アクセンチュア」「関西電力」「三菱電機」「楽天グループ」
「NTT グループ」「ダイキン工業」「三井住友銀行」
大阪大学ではわずかながら本社を近畿地方に置いている企業が増えるといった結果になった。

【九州大学】

「九州大学病院」「九州大学」「九州電力」「福岡県」「日産自動車」「福岡市」
「日立製作所」
こちらは九州地方に本社を置いている企業が主な就職先になっていた。

【大阪市立大学】

「大阪市役所」「大阪公立大学医学部附属病院」「大和ハウス工業」
「オービック」「ダイキン工業」「奈良県庁」「パナソニック」

(大阪市立大学は 2022 年に大阪府立大学と統合し大阪公立大学となったがそれまでに在籍していた学生はそれぞれの大学の卒業生として扱われている)

では西日本の私立大学はどうなっているのだろうか。

【同志社大学】

「東京海上日動火災保険」「村田製作所」「楽天グループ」
「三井住友信託銀行」「京セラ」「富士通」「京都銀行」
同志社大学は京都府にキャンパスを置いている大学だが、本社を東京に置く企業が多く入っていることが分かる。

【関西大学】

「国家公務員一般職」「大阪市教員」「パナソニックグループ」
「大阪府教員」「紀陽銀行」「国税専門官」「大阪府職員」

【近畿大学】

「大和ハウス工業」「紀陽銀行」「大阪府警察」「大阪府教育委員会」
「きんでん」「ウエルシア」「メイテック」

【京都産業大学】

「京都銀行」「京都中央信用金庫」「京都府警察本部」
「関西みらい銀行」「滋賀銀行」「大和ハウス」「一条工務店」

この様に計 17 校の大学の主な就職先を見てきたが、次にこれらの結果を第一章と同じく「立地」「国公立と私立」「偏差値」の観点から比較していく。

まず「立地」について。初めに旧帝大の大学を見た時に、東京大学と京都大学の主な就職先は類似していたが、一方でその他の旧帝大の北海道大学・東北大学・名古屋大学・大阪大学・九州大学とは大きな違いがあった。その違いは主な就職先が各大学の本キャンパスが置かれている地方に本社がある企業となっているということだ。それではその他に同程度の偏差値帯の大学を比べてみる。横浜国立大学と大阪市立大学の場合では、上位就職先の内、同じ企業が全く見つからなかったりと地域による就職先の違いが顕著に現れていた。

次に関東地方の青山学院大学と学習院大学と近畿地方の同志社大学と関西大学を比べた時、関西大学は先程までと同じく地域による就職先の違いが現れていた。しかし同志社大学では地域による就職先の違いが他の大学に比べて少なかったことが分かった。調べていくと、同志社大学のホームページの「就職・キャリア」の欄に、『『大阪サテライト・キャンパス』『東京サテライト・キャンパス』の就職支援のための2つの拠点を設け、関西企業に偏ることなく、東京本社の企業への就職が目立つのも本学の特徴』と書かれており、同志社大学の「本社所在地区別就職状況」では関西地方の 31.9%をおさえ関東地方に 55.4%もの就職生が行っていた。このことから同志社大学は関東地方への就職活動の支援に力を入れ、実際に効果も出ていることが分かった。

最後に関東地方の日本大学と並ぶ近畿地方の近畿大学と京都産業大学を比べたがやはり地域による就職先の違いがあるという結果となった。

このことから就職先は各大学のキャンパスの「立地」に影響されることが分かった。同時に各大学の場所に就職先が影響されるにも関わらず上記で挙げた大学の主な就職先に入っている企業は、就活生から大変人気があり、日本全国から優秀な人材が集まってきているということが分かる。

次に「私立大学」と「国公立大学」とで就職先を比較していく。本キャンパスを同じ地方に置く同程度の偏差値帯の大学ということを経験として比較した。

【東京大学】対【慶應義塾大学】→違いはそれほどなかった。

【横浜国立大学】対【青山学院大学】→大きな違いがなかった。

【大阪市立大学】対【同志社大学】→同志社大学の方が東京本社の企業への就職が多い

【大阪市立大学】対【関西大学】→大きな違いはなかった

これらの結果より就職先は「私立大学」か「国公立大学」という大学の要素には影響されにくいことが分かった。

最後に「偏差値」について比較していく。こちらは本キャンパスを同じ地方に置いている大学ということをも条件とする。

【東京大学 77】vs【横浜国立大学 63】→大きな違いがなかった。

【青山学院大学 72】vs【日本大学 63】→青山学院大学が外資系企業やIT系企業中心だったのに対し日本大学は建設系企業が中心だった。

【大阪大学 74】vs【大阪市立大学 70】→大阪大学の方が少し外資系企業やIT系企業が多かったが、その他の部分では違いはなかった。

以上のことから偏差値は就職先に少し影響を及ぼすことが分かったが、総合的に判断すると各大学の就職先は各大学の本キャンパスの場所に一番影響されやすいことが分かった。

第二節「専門性が高い大学の就職先」

第二節では専門性が高い大学の就職先について調べていく。

専門性が高い大学というのは工業大学や外国語大学の様に一領域のみの学部を持ち、その専門分野に特化している大学のことを言う。

【東京外国語大学】

「楽天グループ」「日本貿易振興機構」「アクセンチュア」「外務省」「日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ」「防衛省」

「アービムコンサルティング」

外国語分野に強いという特色を活かし、高い外国語能力を求められその能力を発揮することが出来る外資系企業や官公庁、独立行政法人などに多く就職していることが分かる。

【電気通信大学】

「NTT データ」「NEC」「NTT コムウェア」「本田技研工業」

「NTT ドコモ」「コーエーテクモホールディングス」「三菱電機」

電気通信大学も工学系の分野が強いという特色を活かし、IT系企業や電機系企業に多く就職していることが分かった。

【東京農業大学】

「WDB エウレカ」「全国農業協同組合連合会」「山崎製パン」

「農林水産省」「伊藤園」「キューピー」「東京都庁」

東京農業大学も農業・生物系の分野が強いことを活かし、バイオ・科学系企業や食品企業に多く就職していた。

【豊田工業大学】

「トヨタ自動車」「豊田自動織機」「アイシン」「豊田合成」

「ダイキン工業」「住友電気工業」「ダイハツ工業」

豊田工業大学も同様に工学系の分野が強いということを活かし、機械系企業や電機系企業に多く就職していた。

このことから専門性が高い大学というのはその高い専門性を活かし企業側から求められる人材を実際に輩出することが出来ていることが分かった。

最後に

この課題研究を取り組む際、はじめに「偏差値が重要視される時代に偏差値ではない視点からも大学を見ることはできないか」と思っていたが、調べていくと結果には偏差値が影響しており、やはり偏差値いうものが社会と強く関わっているのだと痛感させられた。だがそれと同時に専門性が高い大学に進学することにも大きな可能性があることが分かった。多少、偏差値が低かったとしても、その高い専門性を強みに社会から必要とされる人材になることができる。テーマとは離れてしまうが私たちの生活においてもそのようなことが言え、スポーツができる、音楽ができる、資格を持っているなど、そういったことが私たちの将来の可能性を広げていく。そのようなことがこの課題研究を通して発見することができた。

参考文献

キャリアコンパス by DODA 出身大学別平均収入ランキング

<https://career-information.com/4349>

進研ゼミ高校講座 偏差値から探せる！志望校きっと見つかる検索

<https://kou.benesse.co.jp/hensachi/>

文部科学省 令和4年度学校基本調査

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1419591_00007.htm

都道府県市区町村 都道府県別人口・面積・人口密度ランキング

https://uub.jp/rnk/cktv_j.html

doda 平均収入ランキング

<https://doda.jp/guide/heikin/area>

大学通信 実就職率ランキング

<https://univ-online.com/rank1>

大学通信 著名400社実就職率ランキング

<https://univ-online.com/article/career/23918>

東京大学 大学案内

<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400095691.pdf>

京都大学 学校案内

https://www.d-pam.com/kyoto-u/2312070/index.html?tm=1-target/page_no=1

大学通信 2023年大学ごとの主な就職先

<https://univ-online.com/rank2>